

8885

報新濱横

*Grey
Hicida*

り
ほ
ま

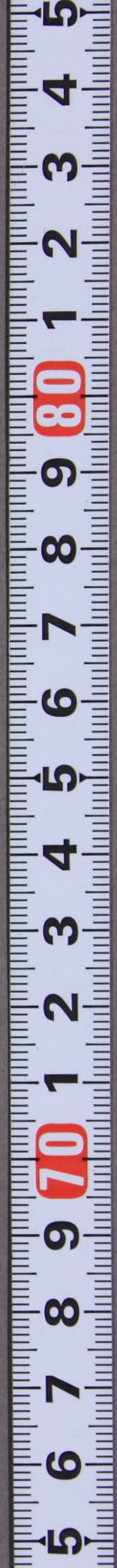
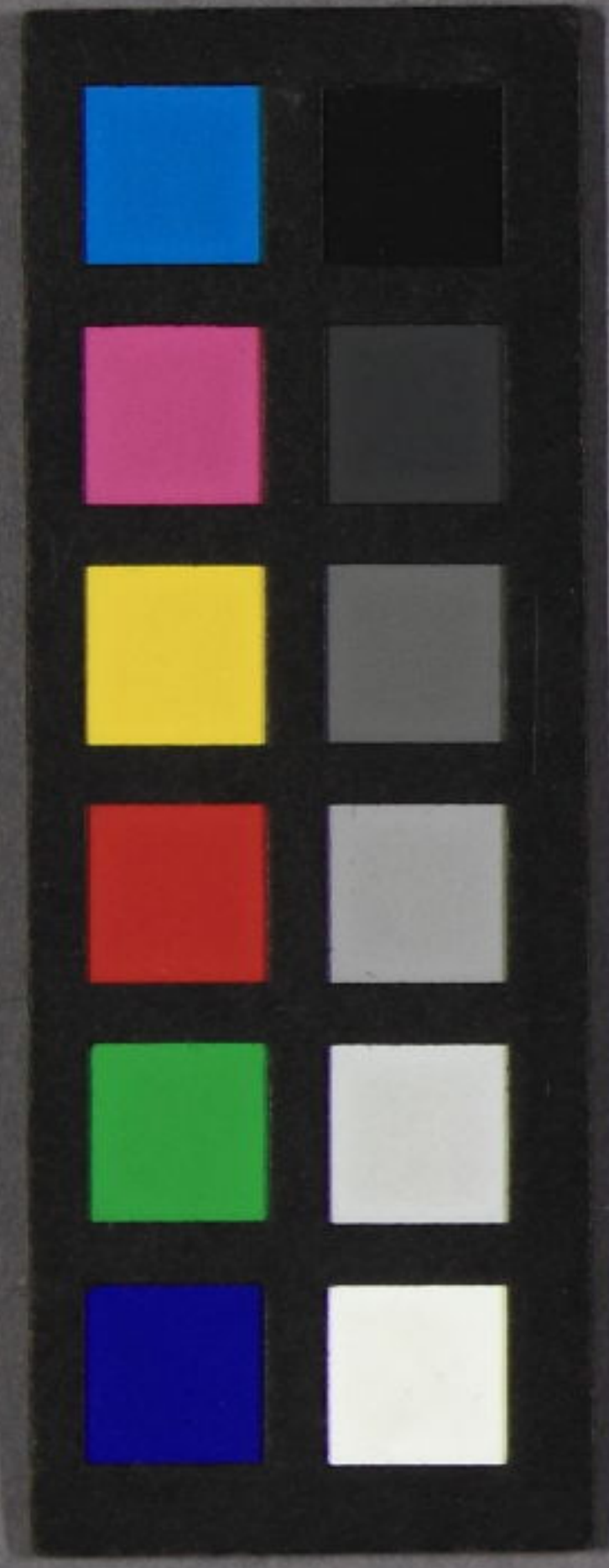
茅貳編

九十三番

ウエンリート

定價壹匁

K.S.ASOM



特 文庫10
7388
2

蘇 實 備 時

おのたま

浪華新聞

水十三番

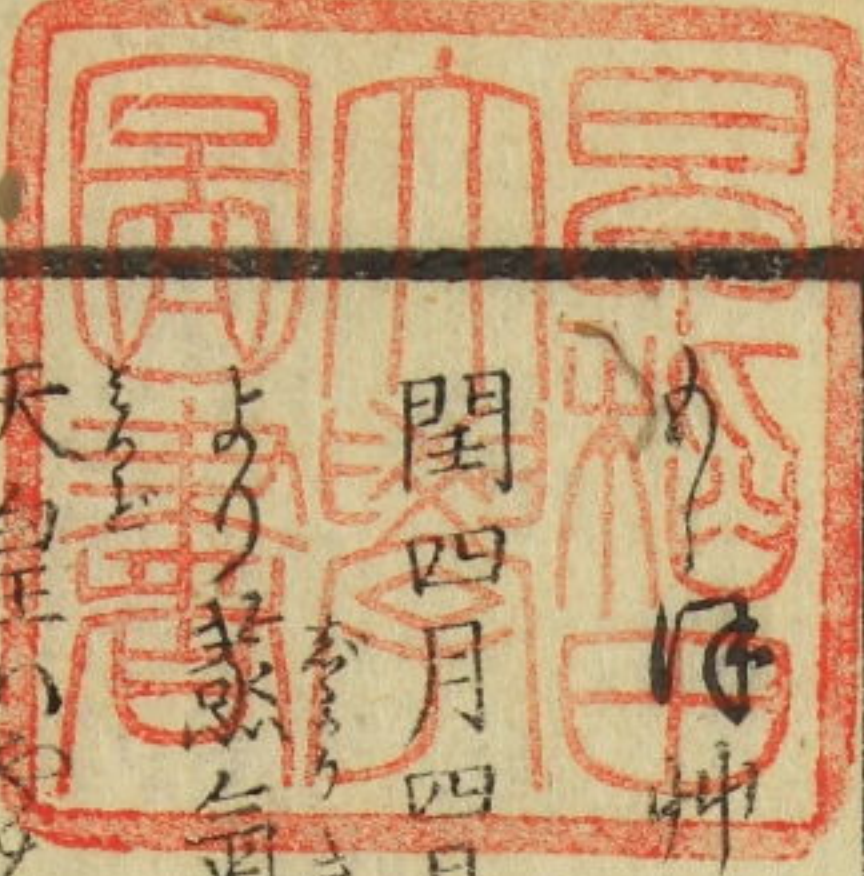
ウツリニート

K.2.V20M

浪華新聞 第貳篇

慶應四年戊辰閏四月十七日

浪華新聞



閏四月四日四點鐘英國公使イギリスモニストルハークス氏并譯官サトウ氏浪華口

より蒸氣船かきりさせのり同六日八點鐘ごろ横濱へつれり

天皇の御より浪華なみぎに行在し是よりして大坂の御より小坂系

栄の體ていなり兵庫のさきどゆきとひもせぬすすめて外國人々大

坂へ開店したるり此の方おほし京都の主上おろす故はるたご

さびしくなりしといつりまごて五畿内中國ともにおろすあり

○浪華のはかりり

○浪華新聞

とまごさきこれバあさろがらさるるをこぞおろぎふかびがさる

まゆ二

四月十四日朝五ツ時ころより浪華元陸軍所へて調練あり諸侯
二十頭の兵丁を悉くまゆりて叡覽ありせらるる一番の安藝新少將
織田出雲守市橋下總守士卒を下知し金鼓をたうしてまづりく
細録を引退るる二番に備前侍從北條相模守森對馬守
りかりて人数をえ進退周旋の状をなす暫時ありて引退る
三番に徳川元千代松浦肥前守池田摂津守四番に長門少將
加藤遠江守小出伊勢守五番に細川侍從津和野侍從柳澤
甲斐守六番に島津淡路守毛利讃岐守七番に藤堂大学頭
松平圖書頭加藤能登守いそかをえハツ時まづりて退散せり
こまゆりと心をまゆりて兵を練り武を講じて退散せり

主上 竜顔うらまへ〜 叡感ありせむとぞ

○供奉の公卿より諸大名の下に文の写

今般蒼生塗炭の苦を被為救度 御仁恤の 聖慮を以

御親征被 仰出海軍 叡覽相濟の上も關東の動靜も依直も

本端を東海道へ被為向ゆ 叡慮ありせらむと大總叔より

形情言上の次第も有之先浪華も行在りそのさまも付てわ

供奉の軍下にも至る迄別して厚 御旨趣を奉戴し聊も私

怨を扱え公事を誤り類の儀決してこれをなせりあつく心を用

の戮力協心可遂成功の尚倍從の者心得違無之様是又名其

家において不洩様精々可相示事

一 異変の節ハ各其持場を固まりし持場無之者ハ嚴げん
肅しゆに御指揮可相待あひまりし猥こ小奔走そうそうし混まじ
と生なじ或あるも持場を去り他たの功こうを争あひ小者せうハ不ふ覺かく
たるべき事

一 平生道路往來どうろハゆるん行軍ぎんぐんたりとしたるがむり
道みちを相讓あひあり礼れいを益えきし無礼むれいの者有之ハ私し小争せう
論ろんに不及ふ其筋すぢハ可訴こそ出では是非せいひ曲直まがを正ただし公平こうへいの
御處置可有之事
一 軍中ぐんちゆうにあつては上下じやうげ貴賤きせん寢食しんじき勞逸らういつとあつては
すべき事

一 喧嘩けんか口論くわんかゝる禁止きんしの事

一 民屋町家たみや小立こたて入い乱妨らんぼう狼藉らうじやくハゆるん押借おしかり押賣おしう亦
かゝる禁止きんしの事

一 遠乗とんりやう或ハ歩行ふかうの節田畑でんはたをふりつらし農のう業ぎやうとさるる
道みちとちの竹木たけきを折取おれとり等の儀ぎ有之同敷どうしき事

一 淨説じゆんせつ流言りゆうげんとく人心じんしんの疑ぎ惑まどを生なじ儀ぎかゝる禁止きんしの事
自然じぜん難差なんさ置事ちじ件けん聞きおひゆる速すみ小其筋そのすぢハ可申出こしんしゆ事

一 猥小酒會こさうかいを催もし醜態しゆうたいを顯あはし儀ぎ下くだにゆるるを心得こころえ
違無ちがひな之様このさま其主人そのしゆうじんよりかゝる可申付こしんづ事

一 驛路えきぢ旅店りやうてん等らうにあつては念怒ねんぬと發はし小民せうたみを恐おそる

怖せしめ有之者おそくおその事

一 貴ハ愛撫あいぶセツテおご賤ハ恭敬きんけいセツテおご上下の

間礼讓れいじやうヲ專せんトシテ非礼ひれい無之誠まことヲ推おし儀ぎ肝要かんよう之事

右の條々堅相守不心得之輩於有之者急度可相補者也

戊辰四月十五日

○諸州雜報

肥前の國ひのくにはまゝにまきりりたるもの者一揆いぎをあららたり
是ハ法蘭西人ほうらんせいじんのつとめてとてとるるなり中國邊ちゆうごくへんの脱

走人そどもおろく此内このうちにまるるてておろくろを三千人の餘より
おろくととり

四月十七日奥州土湯越とゆがしといふ處ところに合戦あり仙臺せんたい并ならひ
薩長の兵さつちやうのへいははつつかか三千七百餘人さんしちひやくしちじゆにして會津の兵えいしんとたたひひが
會津方勝利えいしんかたのしょうりありあり仙台方せんたいかたででおおしし死し人にんおおししたたりり

信州飯山の城しんしゆはんやまのじやうを會津の兵えいしんよりよりおおととて攻こうなるるこの松城まつかじやうより
援兵えんぺいを出だして飯山はんやまを救すくひひけけききバ會津方えいしんかた敗走ばいそうして越
後ちごへへおおろろききととりりととりり
薩州さつしゆより北陸道ほくりくどう掃清さうしやうの兵へいととりりて蒸氣船じやうきせんみみて兵丁へいぢやうを

越後路へはつりつたりときりり

○外國新聞


イギリス
英國の女王その太子と新金山へ遊びまひし何者とも志す草木のむより銃炮を打ちつけたるが太子に何なり命あはれなるまどられざる甚あつたなり

○
アビシニヤといふ國の天竺ふちの所處ありその國の王近來は多きを暴虐めて木の杭を人の腹にうちこみあつた人をせよつてふして地へ伏せおれその上に鉄のくるまをおかすをたふしてつたのつとせりその王も黒人なり

○
ある時エウロツパ人の種は七十六歳ふちなる子ぶらを見つて色は白人の子なりあつたきやうこのあつて牢へつれつとぞあの子めあやれ曾て此王の危難を救ひし事もある者法より悪行おくのどに故此王外へ出る時の百姓を奪走しつてあげあつたを

○
支那めて北京天津の近傍に捻匪回匪といふ兩賊あつて人数幾萬といふほどあつたり國王よりたび追討使をさしつれどもさうあつたりけるけしきなる長毛賊と別つて同類なり

今朝余ちかひ知己ちかひより書状至末下總國行徳舟橋市川
八幡等の諸所あはれあはれ西軍と關東脱走だつそうの兵と戦いくさ争まじり
おとびり勝敗得失其微細さいかゝる新聞を得たは巴次編
に加之近日出板しゅつばんせり

西垣文庫 

文庫 10

7388

2